

時は声を掛けてくれず、獲めるのでもなく、ひなすのでも無い、只々我々の行動を如実に見ているだけだ。浮世とは当に水に漂う浮草の如く、根づかぬものです。不幸も一夜の夢であってほしいものです。我々の寿命は長くて百年、今年には徳川家康公が亡くなって四百年です。徳川宗家は十八代目、徳川恒孝氏、松平宗家は二五代目、松平輝夫氏が血統を相続されています。ご先祖には頼もしい先祖もあり、悲しむべき先祖もごいます。栄枯盛衰、浮世のならいです。人さまの不幸を喜ぶのではなく、人さまの不幸をともに悲しみ、喜びを共に喜べる心の持ち主になっていきたいものです。心の卑しさが醜い姿となって顔に染み出るようになってしまつたらおしまいです。欲望が大きければストレスも大きくなります。幸福は金銭の欲望に身を置くのではなく、心のゆとりが共に仕合せを築いていけたらと思つていきます。昔から悪に走つてしまった人に「改心の情あり」と許す様に心変わりし良心を持つようになった人には寛容です。心はその人の人間性を導き、その人の顔となります。私はその人の神髄は心にあると思つていきます。鬼畜生にも劣る邪心は持つて生まれた性格なのか環境なのか一種の病原菌が巣食つていのか、巢食うべき場所を提供してしまつたのか分かりません。人間メンタルの追及も必要ですが、心が癒されるのは外的刺激（五感）があつてこそだと思つし、自分の心が相手の心と、どのように関わり反応し何を感じ取るのか、相手を把握するのか、心が何処から来たのか、人間の心が生きていくには解決できない問題がたくさんあると思つています。一遍上人の歌に「とにかくに迷う心のしるべには南無阿弥陀仏と申すばかりぞ」と念佛を道標にせよとのお言葉が。三月には雛祭り、五月には端午の節句と子供たちが劫濁・見濁・煩惱濁等五濁悪世百六十二号にて説明）の汚れ醜い世の中を健やかに育つていける様にとの思いが込められていと思つています。嫉妬や僻みが心に充満するのは身の丈に合っていないということです。人を羨むより、敬われる大人に成長してほしい、そんな思いを込めた行事でしょう。病原菌が巢食うも病、心が塞がり腐るのも病、元の身体にして返せとは良く言つたものです。心を洗い身を清める所作・行事・祭礼も土地々にあると思つています。

世界も金を取り巻く情勢が変わろうとしています。それは中国主導のAIIIB、アジアインフラ投資銀行）です。たぶん、インフラストラクチャで大型工事に貸し出す資金提供をするための銀行でしょう。諸国は蜘蛛の糸になるのかエサに成つてしまうのか大きな賭けにできがきました。現在アメリカと日本は参加表明をしていません。来年日本ではサミット、主要国首脳会議）が開催される事に成つていきます。世界にはテロにおびえる国、戦を余儀なくされる国、貧困に苦しむ国、見かけ倒しの国、等々世界の国々は皆、大なり小なり問題を掲げており、一皮剥けば醜いものです。金だけで国が成り立つこともなく、各国が自国の益をうたい文句に手を出すならば真の平和は訪れません。どんな戦も相手の心身に苦痛を与えるものです。

人命を尊ぶのが宗教です。嬉しいニュースもあります。二日にイギリスの皇室ではウイリアム王子とキャサリン妃に第二子シャーロット王女が誕生。手を合わせ祈る姿に慈悲の微笑み